

2021 西城園縁がわ交流フォーラム


テーマ「縁がわで集った思い出の日々」

～ 古き良き時代を未来につなぐ ～

(概要版)



毎年秋に開催している西城園祭オープニング風景

 社会福祉法人 順風会

西城園縁がわ交流事業(2019~2020)

「縁がわ交流フォーラム」(記録) 報告にあたって (ご挨拶)

社会福祉法人順風会西城園

理事長 西山宗孝

平素より西城園の運営につきましてはご支援を賜り厚くお礼申し上げます。2020年から2021年の2ケ年にわたり地域や関係者のご協力のもと西城園において実施して参りました「地域の縁がわ交流事業」のまとめとしてフォーラムを開催することになりました。新型コロナ感染拡大により残念ながら無観客の開催となりましたが、参加いただきました出席者の皆様(パネリスト)による古き良き時代の人々のつながりや、地域の行事などの思い出を振り返っていただき沢山のお話を伺うことが出来ました。参考までに関係者の皆様へフォーラムの記録をお届けいたします。皆様よりいただいた貴重なご意見や、2年に渡る事業を参考に、「西城園」を古き良き時代の家々の縁がわとしてとらえ、地域や次世代につなげる一助となればと考えています。

引き続きご指導賜りますようお願い申し上げますご挨拶といたします。

□ 2021 縁がわ交流フォーラム

テーマ「縁がわで集った思い出の日々」
古き良き時代を未来につなぐ



- ・令和3年2月21日（日）10：00～11：30
- ・西城園デイホール（無観客）

パネラー 木下 博信（元網田中学校長、元宇土市教育長）
大原 昌四（宇土市老人クラブ連合会理事、網田地区在住）
森 正義（元宇土市民生委員 網田地区在住）
黒田 須美子（宇土市子育て支援専門員）

□ フォーラム次第

前座 西城園村一座芝居



（ビデオ紹介）『昔はよかったなあ』芝居

- ・開会 (10:00~)
- ・出席者紹介
- ・フォーラム内容
「昭和の思い出」「西城園の縁がわ事業」から期待することなど
パネルディスカッション
- ・閉会 (11:30)

□ フォーラム開始 (発言概要)

黒田 :



まずは出演者をご紹介いたします。

元網田中学校長で前宇土市教育長の木下博信様です。
宇土市老人クラブ連合会理事で、地元戸口地区の大原昌四様
元民生委員で、網田地区から森 正義様
黒田も皆様と一緒にパネリストとして参加いたします。

木下



若かりし頃、網田中学校に赴任して、地元の方々と交わり、私を育てていただいた。子どもたちとの交流は今でも続いており、こちらに帰れば懐かしいと感じます。

その後 15 年ぶりに網田中学校に校長として赴任したときには、子どもたちや地域の方々と一緒に「網田教育の里づくり」という地域づくりも一緒に進める本当の教育にチャレンジさせていただいたと思っております。

『昔をしのび元気をもらおう』

大原



会場に掲示してある昭和時代の宇土市の写真は、私の人生そのもの。パネルを見て、自分がこの中に溶け込んでいく思いであり、本当に懐かしく、今日は嬉しい。感動しております。

『自衛隊退官後はふるさとへ』『国民学校あり戦争ごっこあり』

森



高校を出てから航空自衛隊に入り、退官後、網田に帰ってきました。思い出がたくさんあり、そういう話をぜひ聞いてもらい、「ああそうだったんだなあ」と思っていたきたい。網田地区の移り変わりを一番見てきているのは、年齢的にも私ではないかと思えます。

この発展を非常にうれしく思っており、末永く続いてほしいと思っています。

『教育の里づくりでは、地域の情熱が教師を育て、地域を育てた。』

木下 私の力は微々たるもので、いろいろ働きかけることはできるが、実行するのは地元の方。網田小や網田中に赴任した先生方が、「網田に来たら、今までのように、のほほんとしていられない。頑張らなくてはいけない。」ということを示す。ここに来た教師は非常に重要な仕事を持っている。地域づくりもやっていく。ということで「網田教育の里づくり」の推進会議を立ち上げた。その後も続いていることは、後に残った方々がおやりになったので、そういう意味では若い人に感謝しています。

『子供達とのふれあいから沢山の元気をもらおう』

大原 網田地区は、「教育の里」として、地域での子育てなど教育環境の整備に力を入れてきた。これまで毎年子どもたちと一緒に輪投げ大会等を実施してきた。去年から新型コロナウイルスの影響で、実施できない状況が続いている。老人会も子どもたちと一緒に活動することがほとんどない。子どもが少なくなればなるほど、子どもたちと一緒に何かしたい。

森 網田地区も人口減少が進み、8つの地区が郵便番号で5つの地域に分類されている。昔の地域の名前が消えてしまうと歴史にならない。地域の名前さえも残っていない。それが教育の原点ではないか。

黒田 コロナ禍ですべてがストップした中、その中でも今やれることをやっている方もいる。昔から「ピンチはチャンス」という言葉もあるように、

この状況をなんとか生き残っていかなくてはならない。古い時代の良きものは残し、新しいものは取り入れなくてはならない。

網田地区におけるふれあい、つどいあい、支え合いなどの話があったが、今後令和の時代にどのようにつないでいけばいいのか。西城園でこれまで実施されてきた「地域の縁がわ事業」を、地域の中で今後どのような形でつなげていけばいいのか。

『ふれあい支え合いの心と場所を次世代へつなぐ』

森 縁がわ事業はぜひ継続していただきたい。ここまで、網田地区のために実施されているので、これからも長く続けてほしい。これが、網田地区の将来、歴史的発展につながると思います。

『西城園の縁がわ活用』『地域住民が地域の為に残していく』

黒田 地元に対して、この施設を活用していただきたいという話も頂いている。私たちが、自ら発案して、こういうことがあったらいいなというものを考えていきたい。

これまで実施されてきた戸口地区の「イカ祭り」のような、踊りやみんなが集い、みんなが笑顔になるような企画がもう一つほしい。

『日本人には祭りは不可欠』『網田はすごかった』『祭りを通して人と人をつなぐ』

大原 郷土を愛する人間の一人として、祭りは日本人にはなくてはならない行事、祭りは、盛大にやってこそ人とのつながりが出てくる。人とのつながりの中でいろいろと話が出てくる。戸口地区ばかりでも網田地区だけでもだめ、それを宇土市全体に広げる必要がある。

『うさぎ狩りで動物愛護、教育の原点を学ぶ』

木下 子供のころ父に連れられて、近所の人に遊びに行くと、まず縁がわに案内され、お茶や漬物でもてなされた。おじいちゃんやおばあちゃんの話もあり、この地域には愛や繋がりがあんだということを子どもなりに感じていました。

『子供を育てる、教師を育てる、親を育て、地域を育てる』

以前、学校でもウサギ狩りをしていた。反省会で大人は猟友会の人から動物の命の大切さを学び、子どもは自分たちで話し合い、ウサギを殺さずに学校で飼育するようになった。こういう話し合いがあったことがよかったのではないか。子どもを育てるということは、教師を育てるし、保護者や大人を育てる。また、地域を育てる。

『おばあちゃん達の縁がわ交流から多くの学び』

黒田 昔の家には、必ず縁がわがあり、いつも開いていた。祖母がいつも近所のおばあちゃんを集め、お茶を飲んでおしゃべりをしていた。当時小学生だったが、祖母からお茶の入れ方を学んだ。そういう生活のための作法というか、生活の知恵を教えてもらった。

そういう、ちょっとしたことを人から人に教える。人を育てるためには、ふれあいが大事。縁がわは、交流の場として必要であり、学びの場として活用していく必要がある。

森 70歳までの元気な方が役職を出来るような流れを作っておかないと組織は長続きしない。70歳までの元気な方が役職を継ぐような流れを作してほしい。

『普段着の付き合いが縁側 そこに結び付きが生まれる。』

大原 役職をする人がいない。網田地区の老人会は5つあったが、役職をする人がいなくなり、1つ、2つと減って行って、とうとう1つになってしまった。地元戸口地区をぐるっと回れば、「どけ、行きよっとかいた。」「ちょっと、寄ってお茶のんでいかな。」などの声がかかり、そういった本当の親しみのあるお茶会が出来てくる。そこに「縁側」が続いていくのではないか。日ごろから、「来たな。お茶でも飲まんかい。」そういった気安さが本当の縁がわであり、そういう気持ちを皆で作っていかないと、昔のようなやさしさが出てこないのではないか。

木下 地区に薬師堂があって、地域の女性が料理を持ち寄って、いろいろ話をして帰るそんな祭りも参加者が減ってきて、将来はなくなってしまうのではないかと思う。祭りを維持していくのは難しいとおもう。

『祭りがなくなっていく』『もやいの大切さを次世代に』

黒田 キーワードとして、「祭り」という言葉が出てきた。小さいころ、祭りには多くの店があって楽しかった。祭りには、飲食が伴い、行ってみようかな。何を食べようかとわくわくして集まる。今はコロナで自粛が求められているが、厄除けの神「アマビエ」は人気。こういうときだけお世話になるのはどうかと思うが、普段から感謝の気持ちがあった方がいいと思う。

昨年7月の豪雨で甚大な被害が出たが、すぐに支援が来ない時は、まずは地域で助け合う必要がある。ふれあい、支え合い、人が寄り、何かの時には地域で助け合う。地域のふれあい、支え合いは、普段からの結びつきが大切。地域でのふれあいが「ひとつのキーワード」となってもいいのでは。

『地域をあげて世代を超えてもっと討論しよう』

森 縁がわ交流事業はいままで知らなかったが、西城園でこんなふうに網田の伝統を受け継ぐ形で行ってもらえるのはいいこと。私にできることがあれば、今後は積極的に協力していきたい。

『地域住民が地域の為につくる縁がわ』

黒田 今日はコロナの影響もあり、無観客で実施したが、こういう話し合いの場を共有したいので、次回は地域の方々に来てもらい、話し合いの場を作っていければと思っている。

最後は木下先生に今後の取組みについて、ご意見を伺って閉めにしたい。

『「元気大学」構想 実現期待！！』

木下 現役を続けることが元気をもらう。例えば、「元気大学」のようなものをここに設立して、地域の方々が教授や学生となって西城園をキャンパスとして、活用していくことも考えていいのではないかな。

私の携帯には、警察から独居老人への声かけ事案や独居老人の行方不明事案が1日に20件ほど入ってくる。そういう世の中だからこそ、地域の方々と一緒になった「元気大学」を是非作ってほしい。

まとめにはなっていませんが。

黒田 網田地区には50年前は8000人いた。今は3000人程度。今後、西城園

を大きなキャンパスと見立てて、心配事の相談が出来るカフェや体力測定・介護予防のための簡単な体操ができる講座、農作業や食育に伴う農育も必要だと思うので、多くの講座もできるのではないかと。地域と連携して、夢をもって「西城園元気大学構想」を進めてほしい。この地域は農・漁業が盛んであり、海苔やミカンが有名であるので、そういう構想を打ち出して、ネーミングが大事だと思うので、大学に関する意見もありましたので、その辺りを参考にして頂いて、今日のフォーラムをスタートとして、今後皆様と意見交換をさせていただきたい。

出来る出来ないは別にして、本日は、構想に関する新しい素晴らしい意見を頂きました。今後構想を進めるうえでの一つのきっかけになればと思います。本日はありがとうございました。



11:30 終了

※ 地域の縁がわ交流事業の詳細は、西城園 HP に掲載しています。

<https://www.seijyo-en.com/>

